

上昇気流

1年のうちの12分の1が終わってしまいました。卒業まであと実質1ヶ月です。1日に1つ「面倒くさいこと」をやり続けると、この1か月間は充実したものになると思います。

1月中の様子から

1月の欠席者が大変少なかったことをうれしく思っています。「高校受験に向けての緊張感や意識の高さの結果でもあるのかな？」と思っているところです。

体調面だけでなく、学習面や受験に向かう気持ちの面でも、2学期よりも更に前向きな雰囲気が見られ、嬉しく思っています。

生活指導通信(心のスイッチ)には、「受験の準備を進めていく上で困っている人がいます」という項目をつくって書きましたが、面接練習に向けても、小論文の練習に向けても、「みんなでちゃんと準備をして乗り越えて行こう」という雰囲気があり、特に面接練習は、例年よりもレベルの高い仕上がりになりつつあります。

放課後の学習会に向けても、「家に帰って一人になったらだらけるから」と、頑張っている生徒が多かったです。

また、人間関係についても、卒業に向けて、更に大変良い雰囲気が見られ、うれしく思っています。

しかし、そんな中、高校受験の大事な書類がいつまでも出せない生徒がいるなど「毎日その日にやるべきこと」ができていない生徒がいることを心配しています。

学校で下書きを済ませるなどして、決して難しい書類ではないものを、早めに出すことをせず、結局締め切り日に間に合わない生徒がいて本当に心配しています。

それすらできていないということは、家で何もやっていないのだと思います。そんな意識のまま、良い結果(合格)や楽しい高校生活は得られないと思っています。

2月の行事予定から

年末に1月から3月までの主な行事予定をお知らせ致しましたが、もう少し詳しくお伝えします。

- 2日(金) 5時間授業・新入学説明会(6年生来校)
- 6日(火) 5時間授業
- 7日(水) 6時間授業
- 10日(土)



私立高校入試

毎年2月10日が私立高校の入試日です。今年には休日に当たっていますが、頑張るしかないですね。代休はありませんよ！

- 13日(火) 代議員会
- 14日(水) 学年末テスト2週間前
- 15日(木) 公立高校推薦入試・3年生午前中授業
- 16日(金) 専門委員会

- 20日(火) 公立推薦入試合格発表
- 28日(水) 学年末テスト1日目
- 29日(木) 学年末テスト2日目(3月1日が3日目)

- 2月2日の放課後頑張りタイム実施日
- 2日(金)・5日(月)・7日(水)
- 14日(水)・21日(水)・22日(木)
- 26日(月)

私立の合格発表の日は、学校によって異なります。

卒業文集をつくっていきます

私立高校や公立推薦の入試に向けて準備が忙しい毎日を送っているところですが、これから卒業の日までは、常に何かで忙しい日ばかりですので、卒業文集の取り組みを始めていきます。

卒業文集は、誰にとっても、楽しく読めるものにしなければならぬと思っています。誰かにとっては宝物のような文集となり、誰かにとっては「見るのもイヤ」なものにはできません。

ですから次の約束を必ず守って原稿を書いてほしいと思っています。

- ・冗談でも誰かをからかったり、誰かの悪口を書いたりすることはしない。
- ・みんなの文集なので、いい加減な内容を書かない。(誤字・脱字がないよう責任を持つ)
- ・乱暴な字や見えにくい字で書かない。ていねいな仕上げを心がける。(ボールペンかサインペン等で書く)
- ・個人のページの提出締め切り日「2月13日」を守る。

文集委員には、次の仕事をしてもらいます

- ・個人のページの形式の検討。
- ・クラス分の原稿を集める。
- ・クラスのページ(4ページ分)の作成。

原稿の印刷は職員で行い、表紙の印刷と製本のみ業者に依頼します。

合格発表の日の思い出から

今から35年前の、私が伊丹市の中学校に勤めて初めて3年生の担任を持った年の出来事です。

今では学校名も学科名も変わっていますが、芦屋南高校の国際文化科を受験した生徒が4人いました。その国際文化科は当時人気もあり、倍率も大変高かったため、彼女たちは「全員落ちてるやろな」と笑いながら、合格発表を見に出発して行きました。

しかし、合格発表の時間が過ぎても、一向に

彼女たちから学校に電話がかかってきませんでした。1時間が過ぎ、2時間が過ぎ、高校や保護者に電話連絡をして捜してもみつきませんでした。そうこうしているうちに、しょんぼりと泣きそうな顔で4人は学校に戻ってきました。

事情を聴くと、次のようなことでした。

「全員落ちてても元気で帰ろな！」と言っていたのに、結果は4人のうち3人が合格でした。落ちた一人に何と声をかけていいのか分からず、合格を喜ぶこともできずに黙っていると、一人が「海を見に行こ！」と言いました。

学校に電話をすることも忘れ、黙ったまま海を見に行き、黙ったまま海をみつめ、黙ったまま帰って来たということでした。

一人不合格だった生徒は、後日、こんなふうに言っていました。「早く一人になりたいけれど、みんなが気をつけてくれているのが分かったので、何も言えなかった」

その一人不合格だった生徒は現在、海外を飛び回り、日本に帰って来た時には講演活動をするなど、国際的な活躍をしています。

高校は、人生の中の一つの過程でしかありません。高校入学が最終目標でもなんでもないので。「どこへ行くか」が大事なのではなく、「そこで何をし、どんな力をつけるか」こそが大事なのです。

もうすぐ、私立高校や公立推薦の入試の日が来ます。3月には公立一般の入試があります。

本校の生徒には全員合格してほしいのですが、何人かは不合格になるのではないかと思います。不合格になる生徒が少ないので、目立ってしまいますが、安全圏をねらうのではなく、チャレンジし、ダメなら併願校でちゃんと頑張ることができるという生徒もいるのです。

この学年の生徒たちも仲が良く、思いやりもある生徒ばかりなので、不合格となった生徒に気を遣うと思います。しかし、過剰な気遣いは要りません。なぜなら、その生徒の前途は必ず開けているのですから。(文責:足立 進)